



# 水土里 ネット CHIBA ちば

2016  
平成28年

No.312 / 秋号

## CONTENTS

口絵「大震災の鎮魂と豊作の祈り  
～竹燈籠の夕べ～」

東日本大震災被災土地改良事業団体連合会 … 01  
による台湾農田水利會訪問

平成28年秋の叙勲等 …………… 02

平成29年度農業農村整備事業関係予算 …… 04  
概算要求の概要

土地改良区に係る新検査方針について …… 06

土地改良区体制強化事業(新規)の概要 …… 09

第39回全国土地改良大会(石川大会)に …… 10  
参加して

インドネシア公共事業省との …………… 12  
技術交流調査団に参加して

全国土地改良施設管理事業推進協議会 …… 13  
研究会の報告

地域資源保全女子プロジェクト意見交換会 … 14  
in さいたまが開催されました!

未来 …………… 16  
農業土木学会石巻市現地研修会を終えて

第22回美しい農村環境写真コンテスト …… 17  
審査会の開催

第22回美しい農村環境写真コンテスト …… 18  
作品評

「中学生水の作文コンクール」 …………… 22  
千葉県地方審査会入賞作品

農業事務所だより

・山武農業事務所 …………… 26

・長生農業事務所 …………… 28

・夷隅農業事務所 …………… 30

風二毛負ケズ …………… 32  
～連合会職員を紹介～



第22回美しい農村環境写真コンテスト 金賞  
「たわわな柿」 撮影場所：君津市亀山湖周辺 撮影者：平野 博之



# 大震災の鎮魂と豊作の祈り～竹燈籠の夕べ～

主催 地元有志「含富里<sup>がんぶり</sup>絆の会」



田んぼの畦に灯す千本以上の竹燈籠



<sup>がんぶり</sup>

含富里地区は富津市の中央部に位置し、山に囲まれた30数戸の小さな集落です。

竹燈籠の夕べは東日本大震災の鎮魂と豊作を祈り、地域住民のつながりを深めるために催されて、今年で6回目になります。

## 第6回 竹燈籠の夕べ

開催日時：平成28年11月19日(土) 16時～20時(予定)

場 所：富津市鶴岡

JR内房線佐貫駅より国道127号交差点まで約850m(徒歩10分)、そこから国道館山方面へ約500m(徒歩6分)左側の水田地帯。国道127号線沿い、館山自動車道富津中央インターチェンジ近く。

駐車場はありませんので公共交通機関でお越しください。

# 東日本大震災被災土地改良事業団体連合会 による台湾農田水利會訪問

水土里ネット千葉 事務局長 湯浅明

去る9月5日から9日にかけて、東日本大震災被災の際に義援金を頂いた台湾を訪問しました。参加者は東日本大震災により大きな被害を受けた、岩手・宮城・福島・千葉の4県土地改良事業団体連合会と茨城県の岡堰土地改良区、全国土地改良事業団体連合会の計6団体15名であり、当会からは、林会長・鈴木副会長とともに3名で参加しました。

台湾から頂いた義援金は、農田水利會(台湾の土地改良区)から姉妹提携をしている日本の5土地改良区に約4100万円、また、農田水利會聯合會(台湾の全土連)をはじめ11の農田水利會職員等からの募金700万円で、総額約4800万円になります。



▲八田與一氏の像(台南烏山頭水庫)

当会では、全土連を通して預かった義援金840万円(台湾及び日本全国からの募金)と、県内から集まった見舞金27万5千円を合わせた867万5千円について、被害状況に応じて29の土地改良区に配分しました。

訪問先は行政院農業委員會(台湾の農林水産省)と農田水利會聯合會、そして瑠公農田水利會をはじめとした6つの農田水利會の8団体です。どの農田水利會も立派な建物であり、職員の方々から頂いた心温まるおもてなしに感銘を受けました。現地視察では、石岡壩頭首工にて1999年の地震災害からの復興状況を、また台南烏山頭水庫では日本の技術者である八田與一氏が尽力し作り上げた嘉南大圳(台湾で最大規模の農水施設)とその後のエピソードを伺いました。

訪問先での被災状況報告会では、農田水利會側から歓迎の挨拶を頂きました。日本側からは団長である宮城県土連の伊藤会長から義援金に対するお礼、続いて全土連の中條専務からお礼と訪問の趣旨・参加者の紹介、その後、宮城県土連の菅原参与が、岩手県から千葉県までの地震津波による被害と5年経過した復興状況の報告をしました。最後に日本の各団体から各農田水利會に記念品を贈呈し、両国の友好を深めました。当会からは鴨川市の伝統工芸である萬祝額まいわいがくを贈呈しました。

最後に、お忙しい中温かく対応して下さった訪問先の方々に深く感謝を申し上げるとともに、今回の訪問が二国間の更なる友好の発展につながることを期待しています。

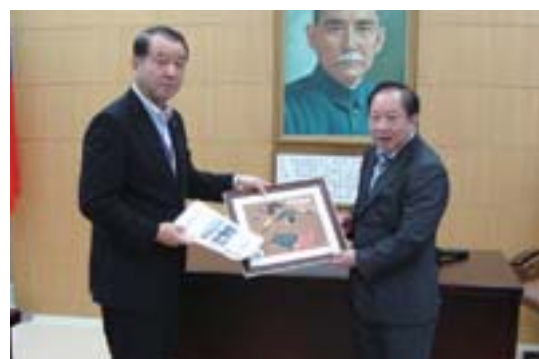
林会長(左)から萬祝額の贈呈(瑠公農田水利會にて)▶



▲全土連中條専務(右)から感謝状の贈呈(農田水利會聯合會へ)



▲歓迎の挨拶(瑠公農田水利會)



おめでとうございます

## 平成28年 秋の叙勲

平成28年11月3日に秋の叙勲が発表されました。本会関係者からは渡邊秀夫氏(天羽土地改良区理事長)が瑞宝双光章を受賞されました。

瑞宝双光章



渡邊 秀夫氏

天羽土地改良区理事長  
君津地域土地改良協会長  
千葉県土地改良事業団体連合会理事

## 土地改良事業功労者表彰

第39回全国土地改良大会(石川大会)において、土地改良事業に貢献した方々が表彰され、千葉県からは伊鏝幹雄氏(市原市市原西部土地改良区理事長)が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。

### 全国土地改良事業団体連合会長表彰



伊鏝 幹雄氏

市原市市原西部土地改良区理事長  
千葉土地改良協会長  
千葉県土地改良事業団体連合会理事

おめでとうございます

## 平成28年文化の日 千葉県功労者表彰

文化の日にあたり、各方面でそれぞれ顕著な功績を挙げ本県の発展に多大な貢献をされた方々が表彰されました。農林水産功労表彰として本会関係者からは、熱田彌氏(いすみ市古沢土地改良区理事長)、石井吉夫氏(千倉町金沢土地改良区理事長)、伊鏝幹雄氏(市原市市原西部土地改良区理事長)、鈴木利男氏(利根土地改良区理事長)、渡辺昭博氏(東葛北部土地改良区理事長)が受賞されました。



**熱田 彌氏**  
いすみ市古沢土地改良区  
理事長



**石井 吉夫氏**  
千倉町金沢土地改良区  
理事長



**伊鏝 幹雄氏**  
市原市市原西部土地改良区理事長  
千葉土地改良協会  
千葉県土地改良事業団体連合会理事



**鈴木 利男氏**  
利根土地改良区理事長



**渡辺 昭博氏**  
東葛北部土地改良区理事長  
東葛地域土地改良協会  
千葉県土地改良事業団体連合会理事

# 農業農村整備事業関係予算概算要求の概要

農林水産省は8月31日、平成29年度予算の概算要求を財務省に提出しました。

農業農村整備事業関係予算については、農業農村整備事業3,555億円(前年度比120.0%)、農山漁村地域整備交付金882億円(前年度比120.0%)、農地耕作条件改善事業147億円(前年度比120.0%)を併せて4,584億円となり前年度当初予算より764億円(前年度比120%)の大幅な増となっています。

区 分	H28年度 予算額	H29年度 要求・要望額	対前年度比
農業農村整備事業	2,962	3,555	120.0%
農山漁村地域整備交付金(農業農村整備分)	735	882	120.0%
農地耕作条件改善事業(非公共)	123	147	120.0%
計	3,820	4,584	120.0%

(単位：億円)

## 重点事項

※各事項の下段（ ）内は平成28年度当初予算

### 1 強い農林水産業のための基盤づくり

#### (1) 農林水産基盤整備(競争力強化・国土強靱化)

- ① 農業農村整備事業<公共> ..... 3,555億円  
 農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、老朽化した農業水利  
 施設の長寿命化・耐震化対策等を推進 (2,962億円)
- ② 農山漁村地域整備交付金<公共> ..... 1,280億円  
 地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防火・  
 減災対策を支援 (1,067億円)
- ③ 農地耕作条件改善事業(再掲) ..... 147億円  
 (123億円)

### 2 担い手への農地集積・集約化による構造改革の推進

#### (1) 農地中間管理機構による農地集積・集約化

- ① 農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化の加速化 ..... 208億円  
 農地中間管理機構の事業運営、農地の出し手に対する協力金の交付等を支援 (81億円)  
 (各都道府県の基金から充当し、不足分を措置)
- ② 農地の大区画化等の推進<公共> ..... 1,210億円の内数  
 農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化が行われる地域 (913億円の内数)  
 等において、地域の特性に応じた農地の大区画化・汎用化等を促進

- ③ 農地耕作条件改善事業 ..... 1 4 7 億円  
 農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化を推進するため、  
 区画拡大、暗渠排水等をはじめ借り手のニーズに対応した基盤整備を支援 (1 2 3 億円)

### 3 人口減少社会における農山漁村の活性化

#### (1) 日本型直接支払の実施

- ① 多面的機能支払交付金 ..... 5 0 3 億円  
 活動組織が農地を維持していくために行う地域活動や、地域住民を含む活動  
 組織が行う地域資源の質的向上を図る活動に交付金を交付 (4 8 3 億円)
- ② 中山間地域等直接支払交付金 ..... 2 7 0 億円  
 中山間地域等における農業生産条件の不利を補正するため、条件不利地域での  
 農業生産活動を継続して行う農業者等に交付金を交付 (2 6 3 億円)

#### (2) インバウンドの推進と農山漁村の振興

- ① 農山漁村振興交付金 ..... 1 5 0 億円  
 都市と農山漁村の共生・対流の促進や地域の活性化、地域資源の活用等による  
 山村の活性化、農福連携の推進、定住・地域間交流促進のための施設等の整備を支援 (8 0 億円)

#### (3) 都市農業の機能発揮

- ① 都市農業機能発揮対策事業 ..... 3 億円  
 都市農業の多様な機能の発揮を促進するため、都市農業制度の検討等の実施を支援 (2 億円)

#### (4) 再生可能エネルギーの導入促進

- ① 農山漁村活性化再生可能エネルギー導入等促進対策 ..... 7 億円  
 再生可能エネルギー事業によるメリットを地域の農林漁業の発展に活用する取組や  
 農業水利施設を活用した小水力発電等に係る調査設計等を支援 (6 億円)

#### (5) 鳥獣被害防止対策の推進

- ① 鳥獣被害防止総合対策交付金 ..... 1 1 0 億円  
 鳥獣被害対策実施隊の増設・捕獲活動の実施、侵入防止柵の設置、捕獲技術  
 高度化施設や処理加工施設の整備、ジビエ活用の推進等を支援 (9 5 億円)
- ② シカによる森林被害緊急対策事業 ..... 3 億円  
 シカによる森林被害が深刻な地域において、地方公共団体等と連携し、広域かつ  
 緊急的に捕獲や捕獲強化のための行動把握を実施 (2 億円)

# 土地改良区に係る新検査方針について

千葉県では、平成28年9月12日付け「千葉県土地改良区における検査改善検討会議報告書」の提言を踏まえ、新たな検査方針を策定しましたのでお知らせします。

## 千葉県土地改良区に係る新検査方針

平成28年9月30日  
千葉県農林水産部農地・農村振興課

### 1 目的

県内大規模土地改良区において事務局職員による不適正な経理で多額の使途不明金が生じ、県による検査において不正の発見に至らなかったことを受け、外部有識者による「千葉県土地改良区に係る検査改善検討会議」（以下「検討会議」という。）を設置し、今後の再発防止に向けた新検査方針の策定についての提言をいただいた。

県では、この提言を踏まえた新たな検査方針を策定し、今後、県内土地改良区が不祥事件を起こすことのないよう、より実効性の高い検査を実施する。

### 2 土地改良区における新検査方針

#### (1) 検査員の意識改革

##### ○検査員としての心得の徹底

常に職業的懐疑心を持ち検査に臨むよう、検査員としての心得を身に付けさせる。

また、個別事例の研修等を実施することにより、不正を見抜く能力の向上を図るほか、検査に必要な土地改良事業や換地業務などの専門知識を習得させる。

##### ○検査業務と指導監督業務の明確化

これまでの検査は、指導監督業務を兼ねて実施していたことから、検査業務と指導監督業務の組織体制を分離し、それぞれの部門の視点でチェックを行うことで、担うべき役割を明確にする。

#### (2) 検査体制の強化

##### ○土地改良区の規模に応じた通告方法の見直し

土地改良区に対する検査は、あらかじめ通告しないで行う。ただし、職員を配置していないような小規模土地改良区に対しては、検査の実効性を確保するため、通告検査を実施する。

また、小規模土地改良区であっても、予算の増減が顕著な土地改良区や、内部けん制が働いていない土地改良区、内部通報等により、特に必要と認められる土地改良区の場合は、無通告検査を実施する。

なお、通告検査を実施する場合は、事前工作を容易にさせないよう、年度当初の一括通告ではなく、個別通告とするが、役員に過度な事務負担を生じさせないよう配慮する。



### ○通告検査における検査基準日の見直し

これまでの検査では、検査着手日の前業務日を検査基準日としていたが、今後は、事前工作を容易にさせないよう、検査基準日は検査通告日よりも過去の日とする。

### ○検査日数の見直し

これまで土地改良区の規模に関わりなく1日間で実施していた検査日数を見直し、今後は、土地改良区の規模に応じた検査日数とする。

### ○検査人員の見直し

これまでの検査では、土地改良区の規模に応じて2~3人体制で実施していたが、今後は、新たに会計経理に精通した職員を増員するなど、会計経理に関する事項の検査体制を強化する。

## (3)検査方法の見直し

### ○現金預金の取扱いに係る検査方法の見直し

現金預金の取扱いに係る検査については、残高の照合のみならず、金銭の出入りの頻度や用途などの合理性にも着目するなど、詳細に照合確認する。

また、金銭の出入りについては、手続きが適正なのかという準拠性だけでなく、入出金額や入出金時期、入出金頻度が適正なのかという正当性にも着目して確認する。

なお、残高照合に当たっては、預金通帳及び預金証書の原本と必ず照合確認する。

### ○検査対象項目の確認方法の見直し

検査対象項目の確認に当たっては、聴取対象者本人だけでなく複数人から聴き取ることとし、回答に矛盾点がないか注意を払う。

また、複数人による相互チェックの実施や、職務の分担化、同一人物を長期間同じ職務に関与させていないなどの、内部統制が図られているかについても検証する。

さらに、事務局内のコンプライアンス推進体制など職場環境の健全性についても確認する。

### ○理事等の検査立会いの徹底

事務局又は職員を設置している土地改良区であっても、必ず、役員の見直しを得て検査を行う。また、役員からの意見聴取を実施し、役員がその適正な権限を持ち、職員等に対する管理・監督責任を果たしているか確認する。

### ○検査指摘事項の明確化

改善を要する事項について、会計経理に関する事項の一部を口頭指摘にとどめていた事例があったことから、役員も含めた関係者への的確な情報提供や指摘事項の事後的な改善確認ができるよう、今後は全て文書による指摘とする。

#### (4) 複式簿記方式・外部監査制度の導入促進

##### ○複式簿記方式の導入促進

大規模土地改良区に対して、土地改良区の財務及び運営に関するすべての取引及び事象を補足できる複式簿記方式の導入促進を図る。

##### ○外部監査制度の導入促進

大規模土地改良区に対して、第三者の視点から監査を行うことにより業務運営の透明性が高められる外部監査制度の導入促進を図る。

また、職務分掌や内部けん制が十分でない土地改良区に対しては、直接残高確認や決算書等会計資料作成の外部委託化についても、導入促進を図る。

#### (5) その他

##### ○内部通報制度の導入促進

大規模土地改良区に対して、リスクを適切に管理し、問題が大きくなるうちに解決することが可能となる、内部通報制度の導入促進を図る。

##### ○土地改良区決算書等の報告徴収による、最新の法人情報の常時把握

指導監督担当は、毎年、県内全土地改良区の決算書、総会（総代会）資料、役員及び会計事務担当職員名簿等の報告徴収を実施し、当該報告内容を検証した上で把握した問題点等について、常に検査担当と情報共有する。

検査担当は、検査の実施に当たり、指導監督担当と連携し、事前に指導監督面から見た問題点等について十分に把握し、検査に反映させる。

なお、指導監督面から見た問題点等により、必要と認められる場合は、重点事項を設けるようにして、検査にメリハリをつける。

##### ○土地改良区統合整備の促進等

統合整備を推進する土地改良区にあつては、改良区役員等の個別指導を行うとともに、統合整備に向けた改良区指導を行うことにより、事務職員が配置できる程度の合併、合同事務所化を進める。

また、土地改良区の運営を実質一人に任せきりにするなど、内部けん制が働いていないと認められる土地改良区に対しては、事業運営の基盤強化を図り、事務的・技術的能力の向上を図る上で、統合整備（解散・合同事務所化含む）を強く指導する。

なお、事業が完了するなど解散を予定している改良区、又は活動を停止している改良区については、各農業事務所及び市町村と連携を図り、速やかに解散に向かうよう指導する。

## 事業の紹介

### 土地改良区体制強化事業（新規）の概要

水土総合強化推進事業が再編され、平成28年度より土地改良区体制強化事業として始まりました。農業水利施設の管理や農業生産基盤の整備を通じた農地利用集積を担っている土地改良区の機能や役割が十分に発揮されるよう、下記の事業を行い、土地改良区の組織運営基盤及び事業実施体制の強化を図ることを目的として実施されます。

#### （事業の目的）

- ① 組織運営基盤の強化（統合整備の推進・実施、財務管理強化、研修・人材育成、人材バンクの設置）
- ② 事業実施体制の強化（施設の診断・管理指導等、受益農地管理強化、研修・人材育成）

#### （事業の特徴）

##### 1. 土地改良区の自助努力により土地改良区体制強化基本計画を作成

土地改良区が今後5年間で達成すべき目標・計画（「土地改良区体制強化基本計画」）を自ら作成（補助対象外）して、組織運営基盤の強化等の改革に主体的に取り組む。

##### 2. 支援対象の限定化（土地改良区体制強化基本計画作成が支援要件）

「土地改良区体制強化基本計画」を作成し、組織運営基盤の強化等の改革に主体的に取り組む土地改良区に対して、優先的・優遇的に、その計画を達成するために取り組むべき事項への集中的な支援（補助対象）を行う。

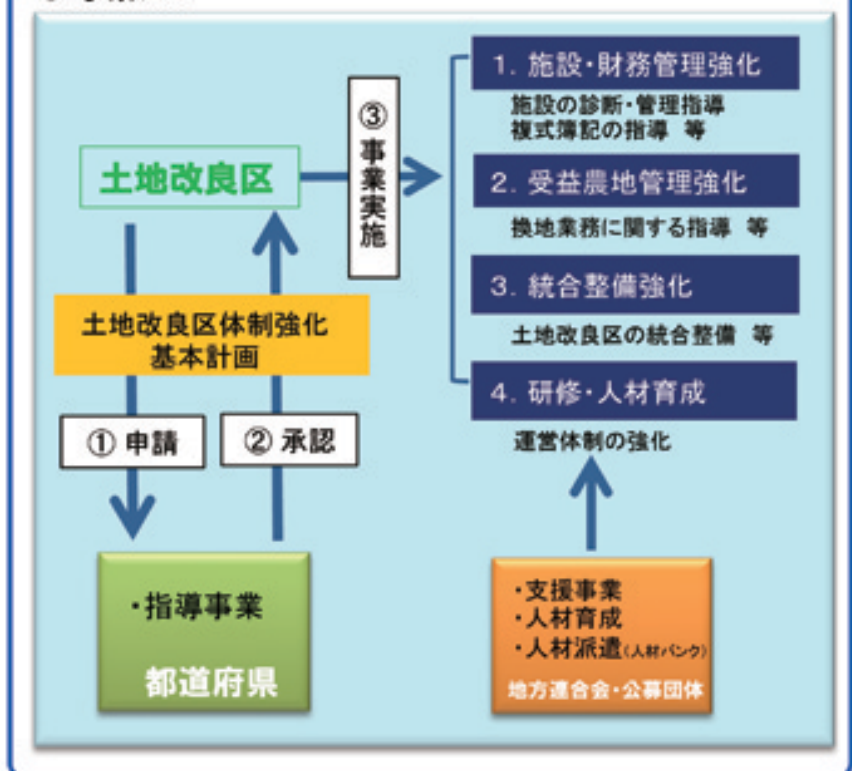
##### 3. 人材バンクの設置（補助対象外）

外部監査人、財産管理人などの専門家（税理士、司法書士等）の関与が必要となる仕組みには専門家を擁する人材バンクを地方連合会に設置。

#### 土地改良区体制強化基本計画（案）に盛り込まれる内容

- (1) 施設管理強化
  - ・施設補修整備計画
  - ・更新計画
  - ・事前積立計画
- (2) 財務管理強化
  - ・外部監査導入計画
  - ・複式簿記導入計画
  - ・非補助事業導入計画
- (3) 受益農地管理強化
  - ・遅延地区解消計画
  - ・財産管理制度活用計画
- (4) 統合整備強化
  - ・合併目標、工程
  - ・賦課基準の在り方
- (5) 研修・人材育成
  - ・研修活用計画
  - ・職員研修計画

#### ● 事業フロー



詳しくは各管内の県農業事務所、または水土里ネット千葉の下記担当部署までお問い合わせください。  
事業フローの1, 3, 4は管理指導部（043-241-1728）、事業フローの2は換地部（043-241-6629）

# 第39回 全国土地改良大会(石川大会)に参加して

## <大会テーマ>

### ～水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ～



水土里ネット千葉 総務部 長坂 崇巳

去る10月24日から26日にかけて、全国土地改良大会石川大会に参加しました。

大会の会場がある金沢市は、かの有名な加賀百万石の大名前田利家のお膝元として発展した城下町であり、今と昔が共存し情緒あふれる伝統の街を一度は訪れてみたいと思っていました。

25日に金沢市のいしかわ総合スポーツセンターで開催された全国土地改良大会(石川大会)は、全国の農業農村整備事業関係者約4,300人が一堂に会し盛大な大会となっており、千葉県からは29名の参加者がありました。

最初に開会宣言があり、その後開催県の石川県土地改良事業団体連合会西村会長、主催者の全国土地改良事業団体連合会二階会長の挨拶に続き、石川県の谷本知事及び金沢市の山野市長より歓迎のことば、来賓代表として礒崎農林水産副大臣及び参議院の進藤議員の祝辞がありました。



▲全国水土里ネット二階会長

続いて、土地改良事業功績者表彰があり、千葉県からは、市原市市原西部土地改良区の伊鏑幹雄理事長が全国土地改良事業団体連合会表彰を受賞されました。(p2にてご紹介しております。)

基調講演では、農林水産省農村振興局室本次長より「国土と未来を築く土地改良」と題し、石川県における土地改良の歴史や今後の土地改良の進むべき方向について、また、石川県立大学丸山参与より石川ゆかりの農業農村を支えた先達として、石川の農業を語る上で欠かせない偉人についてそれぞれ話がありました。

その後、北陸の優良事例地区として以下の紹介がありました。

- 柏崎土地改良区「柏崎刈羽地域の農業農村整備」
- 黒部川左岸土地改良区「土地改良区が取り組む小水力発電」
- 九頭竜川鳴鹿堰土地改良区連合 福井県「未来を潤す九頭竜川の清流」

大会宣言では、石川県立大学の学生2名により、日本の農業における先人達の苦勞と功績を讃え、農業の重要性を再認識し、今後の農業農村の進むべき方向性を念頭に、「水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ」という力強い宣言がされました。

次に、次期開催地である静岡県を紹介、大会旗の引継ぎ、静岡県土地改良事業団体連合会伊東会長の挨拶があり閉会となりました。

26日は、県営農業用水再編対策事業宮竹地区及び国営かんがい排水事業手取川流域地区を事業視察しました。県営農業用水再編対策事業宮竹地区では、事業概要の他に沈砂地が必要になった経緯やその仕組み、吐砂方法等の説明がありました。また、国営かんがい排水事業手取川流域地区では、事業概要の他に白山頭首工について北陸電力(株)との共同事業であること、全面改修ではなく既存施設の改修・補強をメインとした環境配慮型の事業であることなどの説明がありました。

農業を取り巻く環境は、米価低迷、農業従事者の高齢化・後継者不足、耕作放棄地の増加等厳しいものばかりです。そういう状況だからこそ、大会テーマにもある土地改良の未来のために全

国の農業農村整備事業関係者が集結し、地域を盛り上げ、情報を共有し、農業の重要性を再認識することが極めて大事であり、志を一つにできるこのような大会が開催されることに大きな意義を強く感じました。

終わりに、千葉県からの土地改良事業功績者表彰受賞者に改めましてお祝いを申し上げますと共に、本大会の長期間に渡る準備及び運営をしていただいた石川県土地改良事業団体連合会はじめ関係者の皆様には大変お世話になりましたこと、本誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。



▲宮竹地区



▲手取川流域地区



# インドネシア公共事業省との 技術交流調査団に参加して

水土里ネット千葉 技術部 篠原 裕次

昨年11月、全国土地改良事業団体連合会の二階会長が「日本インドネシア文化経済観光交流団」の团长としてインドネシアを訪問した際、インドネシアのジョコ大統領と懇談されました。経済や観光だけでなく農業分野においても、日本の土地改良やかんがい排水分野で技術協力すれば、農産品の品質や生産性が格段に向上するのではないかとの認識のもと、両国で技術交流を進めていくことで考えの一致をみました。来年度以降、農林水産省農村振興局及びインドネシア公共事業省水資源総局との間で、新たにかんがい排水技術に関する技術交流を開始するため、このたび事前調査を実施することとなりました。



両国議事録に署名▶  
(左 室本次長  
右 イمام総局長)

日本側調査団は、農村振興局の室本次長を团长とし、農林水産省、農研機構、全土連・県土連・土地改良区、<sup>ジャヤカ</sup>JICAの計25名で構成され、調査団の一人として参加しました。本調査は9月25日から4日間行われ、はじめにインドネシア公共事業省内で意見交換会が行われました。インドネシアからは、かんがい排水事業やかんがい排水技術の現状や問題点について紹介され、日本側からは農林水産省海外土地改良技術室の宮崎室長から「農業農村整備の概要」、農研機構行政連携調整役の渡嘉敷

氏から「農業工学部門の研究内容」、両総土地改良区の子安事務局長から「両総土地改良区によるかんがい用水管理」について紹介しました。両国のかんがい排水分野の現状報告の後、日本側よりかんがい排水分野における技術交流の提案があり、その場で公共事業省水資源総局のイمام総局長と室本次長が議事録に署名、日インドネシア技術交流が行われることが確認されました。

現地では、インドネシア国内最大のかんがい面積約240,000haのジャティルフルかんがい地区のジャティルフルダムと頭首工の用水管理状況の調査を行いました。また、約90,000haのかんがい面積を有する大規模地区のルンタン地区では、用水管理状況調査のほか、地元の水利組合との意見交換も行われ、土地改良区における農業用水管理の実態等について紹介されました。

平成29年度以降、両国の技術交流によってかんがい用水の効率的な利用が進み、更に施設の適切な維持管理について技術的な支援が行われインドネシアの土地改良技術の向上が進むことが期待されます。



▲ジャティルフルダム



▲地元の水利組合との意見交換

# 全国土地改良施設 管理事業推進協議会 研究会の報告

水土里ネット千葉 管理指導部 上林 友和



去る9月29日から30日にかけて、秋田県で開催された全国土地改良施設管理事業推進協議会研究会に出席いたしました。

講演	テーマ	講師
講演(1)	農業水利施設の保全管理	農林水産省農村振興局整備部水資源課 施設保全管理室 室長 大内 毅
講演(2)	八郎潟干拓と大潟村の現状	大潟村教育委員会 教育長 北林 強
特別講演	正八の取組について	有限会社正八 代表取締役 宮川 正和
事例発表	大潟土地改良区の概要	大潟土地改良区事業課 課長補佐 金野 貴志



▲防潮水門での現地視察の様子

今年度の研究会は、主に八郎潟干拓事業及び大潟村の歴史についてでした。当時日本で2番目に大きい湖であった八郎潟は、食糧自給率を上げるために策定した食糧増産5ヶ年計画により干拓事業が実施されました。堤防を築き排水し、湖底面を農地に変え、新規に村を造成したのです。そのため村全体が海拔0m以下でありました。入植者は選抜試験により合格したものが営農訓練を受け、10haの農地を与えられたそうです。

現地研修では、防潮水門、南部排水機場、F2取水口、干拓博物館を視察しました。防潮水門は全幅370m、ローラーゲート14門、南部排水機場は口径2,200mmが3台、1,800mmが2台設置の大規模施設で、地域にとって大雨時の湛水被害を防ぐためにも重要な施設であります。

大潟村の農業用施設等については耳にしていたのですが、遠方の秋田県まで行く機会はなかなか得られませんでした。今回の研究会で有意義なご講演と視察に参加する機会を頂き、深く感謝いたします。業務ご多忙の中、本研究会の運営にご尽力されました水土里ネット秋田をはじめ地元関係者の皆様には大変お世話になりました。本誌面をお借りし厚くお礼申し上げます。



▲南部排水機場の様子

# 地域資源保全女子プロジェクト 意見交換会 in さいたまが開催されました!

千葉県多面的機能推進協議会 事務局(水土里ネット千葉 管理指導部) 箕箸 美雪

去る8月26日(金)、さいたま新都心合同庁舎2号館11階防災対策室に於いて、関東農政局管内の各都県からの推薦で活動組織等の女性17名と、農林水産省農村振興局の多面的機能支払推進室の柵木室長、そして関東農政局の石田局長はじめ農政局の担当の方々との意見交換会が開催されました。

千葉県からは、活動組織の女性として推薦された篠本新井地区農地・水・環境保全管理協定運営委員会の鈴木喜久子さんと共に出席してきました。



最初に、石田局長が「先日JA中央会の集まりに参加してきたが、男性ばかりでまだまだ女性の活躍の余地があると感じた。多面的機能支払でも、個別の事例を見ていくと女性の影はまだ少ないが、こうして集ってみると女性も頑張っているのが分かる。今日はどんな問題意識があるのか教えてほしい。」と挨拶されました。

また、柵木室長からは、「平成27年度の時点で2万8千組織にのぼり、その構成員は団体を除いて210万人と増加傾向にあるがリーダーに女性の名前が挙がることは少ない。今日を機に気運を高めて、女性が活躍して行くにはどうしたらいいか議論をして今後の発展につなげていきたい。また、その点において、広報が1つ重要となることから、今日の講演を参考にしてほしい。」と挨拶がありました。

意見交換に入る前に、『地域活動の広報戦略ワークショップ』という講演が(有)キュープランニングの北名代表からあり、「あなたの広報活動を効果的にする5つのポイント」①目的を明確にする、②対象者を設定する、③ゴール(期待するターゲットの行動)を設定する、④メッセージをふくらませる、⑤メッセージをより魅力的にできないか考える、を中心に行われました。さらに、メディア担当者に告知する方法やプレスリリースについて紹介があり、最後に、デザインのコツとして色使いやフォントの効果などについても触れていました。

その後、『女性の視点からの地域活動の現状・課題分析と女性の活躍推進に向けた意見交換』が開催されました。

活動組織から参加された女性の方々から、多面的機能支払の活動によって地域はどのように変わったか、活動に多くの女性が参加するためにはどうしたらよいか、女性の活動が期待されていることはどのようなことか、女性が一層活躍するためにはどうしたらいいか、等について意見を発表してもらった形で進行していきました。





ほとんどの組織では、植栽や生き物調査などで女性が活躍しており、中には、構成員が少ないため男女関係なく草刈りや泥上げなど力の必要とする作業も行っている組織があり、たくましさを感じました。非農家で構成員になっている女性は、この活動に参加して初めて水路の目字詰めを行うなど楽しく活動に参加しており、次は何を行っていかうか相談をしているところと言っておりました。また、女子高校生で唯一参加してくれた将来の後継者がおり、若い後継者は地域の企業との連携などにも積極的に参加し、若い発想で活動に活気を出している印象を感じ取れました。



▲篠本新井地区の鈴木氏

千葉県から参加してくれた篠本新井地区では『好きです「ふるさと」守ろうつくろう 美しい自然』をテーマに活動しています。日本ではこの地域にある多古湿原にしかないと言われている希少植物の保護と観察会を行っており、活動を始めた頃より更に高齢化が進んできていることから、鈴木さんも「参加してもらう時間帯やできる活動内容の工夫をして、お母さん達や年配の方にも少しでも活動に参加してもらえるようにしていきたい。」とお話していました。



いろいろな意見が出ましたが、女性がさらに活躍していくには男性の理解が必要であり、多くの女性や非農家に参加してもらうためには、参加を増やしていくための工夫、例えば、子育てが落ち着いてきている中学生や高校生の母親が参加しやすい活動を設定する、非農家の方を活動に巻き込むための仕掛けをする、そして、そのためには行っている活動を発信していくということでした。「周囲の点と点がつながっていくためには発信することが重要。発信が届けば人手不足も改善するかもしれない。」と局農地整備課の木村課長が発信力の重要性について言及されていました。



意見交換会に参加し、どの活動組織もいろいろと頑張っているなと感じました。地域に沿った活動を行い、地域に溶け込むように活動をしております。

今回参加できなかった千葉県内の活動組織の中にもいろいろな工夫を凝らして活動を行っている組織があります。活動組織も様々な形があり、同じ活動ができる訳ではありませんが、今後の課題として、参加者を増やしていくということ、農地を守っていくためにはどうすべきか地域で話し合いをする機会を設け、地域の意思統一を図るようになっていくこと、そのためには、コミュニティを図り、本活動を地域の人に知ってもらうことではないでしょうか。

今回の意見交換会は、活動組織から女性だけの参加でしたが、男性にも参加してもらい同じテーマと一緒に意見を交わしていったらどうなるのでしょうか。女性だけで頑張ろうと言ってもできる訳ではありません。男性も女性も一緒に向き合っていかななくてはならない。男性と意見交換をすることで、男性の女性への考えも変化があるかもしれません。

私たち推進協議会や行政も情報の発信を重要視し、地域に密着していくように努力が必要なのかもしれません。地元とのネットワークをつなげていく必要性を感じました。

# 未来

## 農業土木学会石巻市現地研修会を終えて

水土里ネット千葉 技術部 馬場 光一

「長い年月がかかっても、コツコツやっていくことで、徐々に人が戻ってきてくれたら。また、子供達の明るい歓声が響き渡る村になってくれることを祈っています。」

(株)宮城リスタ大川(石巻市大川地区)の代表である大槻氏は最後に静かに語った。宮城リスタ大川は、被災から2年後の平成25年に誕生した法人であり、リスタとはrestart(再出発)の意味である。

平成23年3月11日14:46に東日本大震災が発生した。地震発生からわずか50分後には、石巻市を津波が襲う。当時の最大震度7、石巻市の津波は8.6m以上と記録されている。石巻市の大川地区は北上川の河口部右岸に開けた水田地帯であり、津波による被害は甚大であった。

そもそも、石巻市は戦国時代に葛西氏の領土であった。それが、秀吉による小田原征伐時に伊達の領土となり、伊達政宗の政策により、北上川の洪水と戦いながら、川の瀬替えと新田開発を行う。また、石巻港は小さな漁村から国際貿易港へと発展し、東北の米を江戸、大阪、京都等に送り、文化や人の交流をはじめ色々なものの行き来となる海運都市として発展を遂げることとなる。その後、高度経済成長とともに鉄道、車両の運輸が中心となり、漁業、工業、農業として発展した歴史がある。

また、大川地区に入る仮設道路脇には大川小学校があり、津波により89名のうち84名の命が失われている。現在、小学校は取り壊されずにそのままの形で残されており、少し前までは子供たちの声が聞こえていたであろう教室は大きく口を開いていた。散乱した机やイス、体育館とつながる崩壊した渡り廊下、校門の前には慰霊碑とそこに並ぶ住民の姿。止まった時間が空気となって感じられる。

現在、宮城リスタ大川により大川地区は450haの内253haが営農を再開している。また、水稲だけではなく、安定した収入が得られる菊も栽培し、市内販売まで行っている。「先祖が残してくれたこの土地を、未来への子孫に残していきたい。」失ったものは計り知れないし、外からやってきた我々には、その悲しみは分かるものではないが、この土地や人に、強さと未来を深く、深く感じた。



▲営農を再開した農地

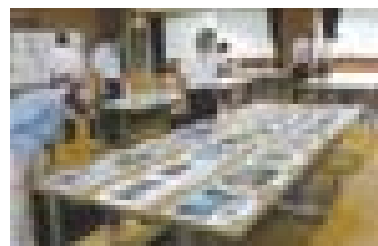
第22回

# 美しい農村環境 写真コンテスト

## 審査会の開催

水土里ネット千葉  
管理指導部

去る7月15日、第22回美しい農村環境写真コンテストの審査会が開催されました。こちらは「誰もが住んでみたい美しい農村環境」をテーマに毎年開催されており、今回は昨年を上回る72名の方から174点の作品をご応募いただきました。たくさんのご応募ありがとうございました。



審査の結果、19点の入選作品のなかから最優秀賞(千葉県知事賞)・県土連会長賞など、各賞が決定されました。その後8月18日にはホテルプラザ菜の花にて表彰式が執り行われました。受賞者の皆様、入賞おめでとうございます。



一方、千葉市内にありますQiball(きぼーる)では、8月17～19日の3日間、1階のアトリウム「きぼーる広場」にて作品の展示を行いました。今年度は入選作品に加えご応募いただいたより多くの作品を公開させていただき、大好評のうちに幕を閉じることができました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

(次回のご案内は巻末をご覧ください。)



第22回

# 美しい農村環境

## 写真コンテスト 作品評

講評 特別審査員 田村民雄氏  
(日本写真文化協会)  
(撮影者:敬称略)



### 最優秀賞(千葉県知事賞)

#### 「楽しみ」

撮影場所：旭市  
撮影者：宮本 弘文

親子稲刈り体験でのスナップ写真ですね。刈ったばかりの稲束を持った誇らしげな表情を、シャッターチャンス良く撮っております。画面後方の人々の扱いが効果的です。



### 千葉県土連会長賞

#### 「どうやるの」

撮影場所：匝瑳市  
撮影者：小林 幸二

お母さんに教えてもらいながらの田植え体験の一駒ですね。どうしたら上手に植えられるか、困った表情を良く撮っております。もう少しお母さんの手元を入れたかったですね。



特別賞【千葉県農村振興技術連盟賞】



「淡い春」

撮影場所：香取市 撮影者：越川 美智子

早苗田に映り込んだ八重桜の桜色が、春を良く表現しております。撮影アングルも良く、画面に無駄がありません。後方で遊ぶ子供たちを画面に入れたのはさすがです。

特別賞【千葉県多面的機能推進協議会賞】



「虫送り」

撮影場所：九十九里町田中荒生 撮影者：小栗山 秀男

夏の伝統行事が復活したのは嬉しい事ですね。お祭りは、子供の心にいつまでも残る思い出です。立ち上る火柱の周りで祭りを楽しんでいる人々を良く表現しております。

特別賞【ちば水土里支援パートナー賞】



「ボッチのある風景」

撮影場所：佐倉市 撮影者：鈴木 康雄

落花生生産日本一の千葉県の風物ですね。早朝、朝霧が日の出と共に消えていく微妙な時間帯を良く撮りました。紅葉した後ろの木々が、秋の深まりを感じさせます。

金賞



「たわわな柿」

撮影場所：君津市亀山湖周辺 撮影者：平野 博之

木に登って収穫しているところを見ると、美味しい柿でしょうか。写真をよく見ると、木に登っているのがお婆ちゃん、下にいるのがお爺ちゃん。ユーモアある一枚ですが、気を付けて！

## 銀賞



### 「秋の棚田」

撮影場所：鴨川市 撮影者：波多野 保

農作業に精を出している2人を画面上部にバランスよく配し、畦道に咲く彼岸花を逆光で、リズムカルな構図で美しくまとめております。



### 「春に備えて」

撮影場所：鴨川市大山千枚田 撮影者：井上 すみ子

光のとらえ方、画面構成がしっかりしております。機械化された現在において、このような年配の方の作業する姿は、心に訴える一枚ですね。

## 銅賞

### 「静かな朝」

撮影場所：船橋市  
撮影者：小野 敏明

美しい農村の原風景ですね。朝もやの中に登る朝日に照らされ朝露を浴びたエノコログサに止まるトンボを、逆光で印象的に表現しております。



### 「里の春」

撮影場所：栄町 撮影者：新田 幸雄

桜に菜の花、青い空に白い雲。美しい里山の風景と、散りかけた桜の花の中を駆け抜ける子供たちの姿を、広角レンズでしっかりした画面にまとめております。

### 「想い想いに」

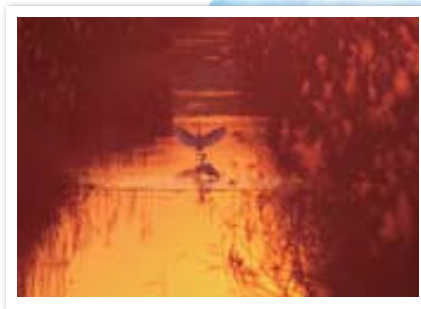
撮影場所：袖ヶ浦公園  
撮影者：中村 まさ子

絵を描いている大勢の人の前に、平然とカメラを構えて写真を撮っている人を撮った、ユーモアあるスナップですね。このカメラマンは皆に挨拶したのかな？



佳 作

「夕陽を浴びる」



撮影場所…香取市  
撮影者…小阪 欽哉

夕陽に染まった小川に舞い降りた白鷺を見事なシャッターチャンスで、美しく撮っております。望遠レンズを使用し、手前のススキをぼかしての撮影が効果的です。

「楽園」



撮影場所…利根土地改良区花野井地先  
撮影者…松丸 正

本当にこのような鳥の楽園が千葉県内にあるのかな、と思ってしまいました。羽ばたいた白鷺の姿はまるで鶴のようで、美しい被写体に恵まれましたね。

「春の里」



撮影場所…市原市  
撮影者…菅原 謙太郎

巧みなレンズワークです。菜の花を手前に春を表現し、遠近感ある写真に仕上げしております。鋤を振り落とそうとする一瞬のシャッターチャンスに、農夫の想いが伝わります。

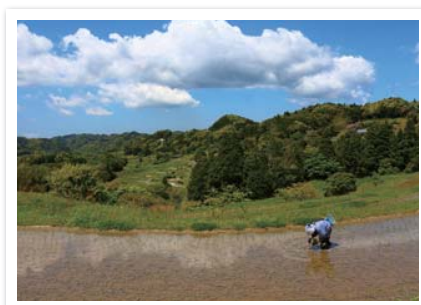
「彩りの里」



撮影場所…香取市仁良  
撮影者…伴 博之

町興しでの鯉のぼりでしょうか。素晴らしい天気にも恵まれ、広角レンズで手前に満開のつつじ、遠方には早苗田に映った鯉のぼり。美しい写真に仕上げしております。

「がんばんぺえ」



撮影場所…鴨川市平塚  
撮影者…小宮 晃

農地を守るのはお年寄りの役目。緑多き山々に囲まれた水田に一人黙々と農作業。“日本の農村の原風景”とありますが、美しい光景もなぜか侘びしく感じます。

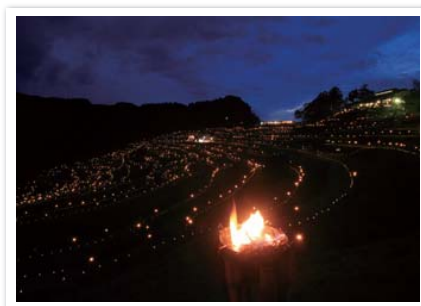
「月夜の水郷」



撮影場所…香取市  
撮影者…石井 昌良

いつもカメラを持ち歩いているのですね。条件の悪い状況下で、ブルーな美しい写真に仕上げました。遠方の工場群の光が遠近感を感じさせます。

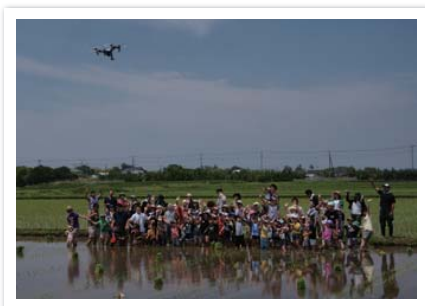
「暮色の棚田」



撮影場所…鴨川千枚田  
撮影者…牧元 晴美

観光化された棚田を、微妙な空の青味を残すという計算された時間帯と、巧みなレンズワークで松明を手前に配し、遠近感ある写真に仕上げしております。

「記念撮影」



撮影場所…匝瑳市今泉  
撮影者…熱田 安夫

田植え体験の記念写真をドローンで撮影。ずいぶん贅沢な記念写真の一駒ですね。ドローンで撮った写真も見たかったです。泥んこになった子供たちの顔も。

「水の日」関連行事

## 第38回

# 「全日本中学生水の作文コンクール」 千葉県地方審査会入賞作文

千葉県総合企画部水政課

「水の日」及び「水の週間」は、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する国民の関心を高め、理解を深めるため、昭和52年の閣議了解により政府が定めました。

年間を通じて水の使用量が多く、水についての関心が高まる時期である8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間(8月1日～7日)を「水の週間」として、ポスターによる啓発や講演会の開催など水に関する各種の行事が全国的に毎年実施されています。

また、平成26年7月に施行された水循環基本法においても、国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解や関心を深める日として、8月1日を「水の日」と定められました。また、同法により国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならないとされています。

次代を担う中学生を対象に『水について考える』をテーマとした「全日本中学生水の作文コンクール」は、「水の日」及び「水の週間」の行事の一環として、国及び都道府県の共催で実施されてきました。

38回目を迎える今年は、県内在住・在学の中学生から、日常生活経験や学習を通じて得られた水の貴重さ、水資源開発、水の様々な用途への安定供給や環境保全等の大切な中学生らしい視点でまとめられた436編の応募がありました。

県では、去る8月3日に、千葉県地方審査会で選ばれた優秀な作文8編について、県庁で表彰式を行いました。

ここに、最優秀賞及び優秀賞の作文3編をご紹介します。また、表彰式の様子や入賞作文は、千葉県ホームページでご覧いただくことができます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/suisei/sakubun/index.html>

入賞作文をご覧いただくことで、私たちが普段の生活ではあまり考えることのない「水」について、もう一度考えてみるきっかけにいただければ幸いです。



## 最優秀賞

## 視覚化を夢見ながら

八千代松陰中学校 3年  
う え の みさき  
 宇恵野 岬



ある日、新川沿いの桜並木を見に行ったら。とても綺麗な桜を見ながら楽しんでいた。だが、やはり気になる。

「なぜ新川の水はこんなにも汚いのか？」

新川とは、自宅から自転車で5分。千葉県の印旛沼から花見川につながる川である。しかし、汚すぎて魚の姿どころか生き物が住んでいる気配がない。失礼かもしれないが、すれ違ったバス釣りの男性二人組に冷ややかな視線を投げてしまった。

川沿いは、住宅街やマンションが急激に発展している。その人々の生活を支える浄水場は、水源とは思えないほど汚い。灰色とも黒色ともいえないような色。土手には、何が入っていたのか全くわからない空き缶が捨てられ、野良猫に餌をあげたままにしているプラスチック容器がひっくりかえっていた。

元々、新川は江戸川と利根川をつなげる大工事の際に一緒に造られた川である。工事には難点があった。それは、印旛沼から花見川につながる際に高低差が1メートルもなかったという事だ。ちなみに、その当時は電気自体なく、人力によって長い年月をかけて造られた。亡くなった人達も多く、工事を中断したこともあった。そんな苦労の上に完成した大切な川なのである。

しかし、現在はこんな状態に。

「本当にこれでいいのだろうか？」

よく学校で見かけるポスターに「節水はこまめに」と書いてある。桜をぼんやり眺めながら、節水に取り組む方法を考えてみた。

自宅に帰った私は母に、庭のチューリップやパンジーに水やりを頼まれた。節水を考えていた私は、「お風呂の水を庭の水やりに使っていい？」と、バケツを持って自信満々に聞いた。すると、石けんカスが入った水は花を枯らすから駄目だと言われてしまった。その上、雨予報の前日は水やりしな

いで節水していることや、雨水も多少なりとも溜めていることを教えられた。今まで知らなかった我が家の工夫に感心してしまった。

水やりをしながら、水道使用料が気になって仕方なかった。しかし、使用料は請求書に月間分で書かれている為、花の水やり1回分なんてわからない。

使用した水の量を、その瞬間一目で確認できるような視覚化が欲しいと思った。

「この一回の使用でこの位か。次はもう少し節水できるようにしよう。」と考えるようになれば、節水目標を設定し、実行しやすくなる。

例えば壁に水道使用量のパネル表示、蛇口自体に使用料がデジタル表示されたりすれば、水を使う度に絶対に目に入る。オール電化のように自宅用ろ過装置があれば、お風呂の残り湯も庭に利用できるようになるのではないだろうか。

携帯電話の料金プランのように、水道料も「節水家庭」というようなプランがあり、「何リットル未満の家庭は何割引。」というものができたら、母は絶対に飛びつくだらうなと想像したら笑ってしまった。こんな風に各家庭がそれぞれ管理できるようになれば最高だ。簡単に節水を意識できるようになると思う。

しかし、今の自分にはそんなろ過装置や料金プランを作る力はない。そのような世界ができるまでには莫大な費用と時間を要する。

いつか誰かが何とかしてくれると甘えてばかりではいけない。私は適当に水を撒くのを止めた。この、ちょっとした水への気遣いで節水はできるのだ。「視覚化できる水道」が無くて、節水を心がける気持ちはすぐに持てる。

これからも、自分が利用する水への責任を考え、生活していきたいと思う。

## 優秀賞

# 水との共存

私の家の近くには田んぼがあり、その隣には川が流れています。その田んぼと川の間は、うちの犬の散歩コースにもなっています。そこは、春は草花がたくさん咲き、夏は亀が甲羅を干し、水の張った田んぼでは蛙が泳ぐ、とそれぞれの季節を楽しむことができます。それも、田んぼや川、つまり水があってこそです。田んぼで稲作が出来るのも、川で亀や魚たちが暮らしていけるのも、水があるからです。そればかりか、人間が生きていく上でも水は欠かせないもの。水が無くては生きていけません。

しかし、水は地球に良いことばかりを与えてくれるわけではありません。時に水は雨となって私たちを襲ってきます。特に日本は、世界的に見ても雨の多い国なので、大雨による災害での犠牲者が多く出ています。

それほどまでに大雨が降っているにも関わらず、地域によっては水不足に悩まされているのです。この問題の原点は、どこなのかを考えてみました。

まず、人々の暮らしが豊かになったことが一番の原因のように思います。なぜかというと、生活の中での水の使用量が増えたからです。特に、都市では人口が増え、水の使用量も増えています。また、産業用の水も大量に使われていて、大都市は水の便が良い大きな川のそばに発達したのに、遠くの川からも水を引かなくてはならなくなっています。

また、日本の川は、雪解け水が流れる4月と梅雨の6・7月、台風がやって来る9・10月に水量が

八千代松陰中学校 3年  
み やま すず  
深山 涼



多くなりますが、その雨水が利用されずに海に流れてしまう量が多いのです。その対策として、全国各地にダムが造られています。雨の多い時期に川の上流の水源地帯に造られたダムに水を蓄え、洪水の害を防ぐとともに、雨の少ない時期には水を放流しています。ダムを利用することで、水不足の問題を解消しようとしています。

他にも、森林の再生が重要な課題となっています。森林は、大雨が降った際の土砂崩れの防止などにも役立ちます。世界的な問題となっている森林破壊を抑制していかなければなりません。

水不足の対策は、家庭で出来ることもあります。例えば、入浴の時に私たちはシャワーを使いますが、シャワーは、1分で12リットルもの水を出しているのです。ですので、水を出しっぱなしにしていると、大量の水を無駄にしています。これからは、使用していない間はなるべく止めるようにしなければなりません。また、シャワーは、いきなりお湯が出るのではなく、最初は水が出てきます。その水は、排水口に流してしまい、無駄にしている人が多いと思います。しかし、これもきれいな水です。溜めておけば、他の用途に使用できます。洗濯物を手洗いするときに使ったり、花を育てている人は水をあげるのに使ってもいいと思います。

このように、少しの意識で水の使用量を抑えられることはたくさんあるのです。私たちは、これまで以上に、水と共存するために考えを深めていかなければなりません。

## 優 秀 賞

## あたりまえにあるものの価値

八千代松陰中学校 3年

なが さわ つばさ  
永澤 翼

僕が水の価値について真剣に考えたのは、2011年3月におきた東日本大震災の時です。この時、僕はまだ小学生だったので、小学校の校舎で地震を体験し、親の迎えを待っていたのを覚えています。帰宅途中、多くの家の屋根がこわれていたり、お店もガラスが割れていたりして、いつもの下校の時に見る景色とは全く違っていました。

僕の祖父母は、福島県郡山市に住んでいるので、家族みんなで安否確認をしたのですが、電話がつかならず、連絡がとれたのは夜中になってからでした。

祖父母は無事でしたが、断水に困っていました。又、もし水が出たとしても、原発事故の関係で、水道水を飲むのが心配とも話していました。福島の人達も皆同じ考えなのか、祖父母の家の近くのお店には全く水が売っていないとのことで、ペットボトルの水は全く手に入らないようでした。

そこで、震災の翌日から、千葉県に住む僕たち家族は近所のお店に飲み水を調達しに出かけ、何件かまわった結果、2リットル入りのペットボトルを数十本手に入れることができました。早速、父が車でその水を郡山市の祖父母の家まで届けることになりました。

スーパーのペットボトルの水を置いてある棚が空だったのは、この時初めて目にしました。いつもきれいに並んで置いてある、たくさんの種類の水。何も考えない時には、のんきにパッケージなどを見て美味しそうなものを選んで買っていました。しかし、この時はパッケージや値段を見る余裕は全くなく、とにかく「水が欲しい!」の一心で棚に残った水をカートに乗せたのを覚えています。

郡山の祖父母は、水が届いた事をとても喜んでくれました。断水は解除されていましたが、放射能もれのニュースが連日報道されていたため、

水道水を飲めずにいました。話を聞くと、いかに日常生活の中で自分達は水を使っていたのか痛感させられました。一番は入浴です。あたたかいお湯をたっぷりはった浴槽は、小さい頃から毎日のあたり前の光景でしたが、これが実はとてもぜいたくなことなのだとわかりました。震災直後から、我が家でも水の節約を心がけ、浴槽には湯を入れたペットボトルを数本入れておき、少しの湯でも肩まで十分つかれるようにと工夫しました。シャワーもヘッドを手元でボタンを押すとすぐに水が止まるものに替え、シャワーの穴も細かい穴がたくさんついているタイプにしました。こうすることで、同じ水の勢いなのに、使う水の量はかなり節約できるようになりました。

次に、ぜいたくに水を使っていたと感じたのが台所です。お米を炊く為にも、たくさんの水を使うことがわかりました。そこで、研がずに炊ける無洗米を使うようにしました。又、食器を使う時も洗う時のことを考え、軽くふいてから流しにお皿をつけ置きするようにしました。ささいな事かもしれませんが、このひと手間は、食器を洗う時間がかかり短縮でき、水の節約にもなりました。

震災で水不足になった福島県の祖父母の体験は、自分の中で改めて水の大切さを考えさせられるきっかけとなりました。いつも蛇口をひねると、あたり前に流れる水ですが、実はこれがあたり前ではない事、とてもありがたい幸せなことだと実感しました。きれいな水を毎日飲む幸せは、人間が生きていく中で忘れてはいけない事です。海や川から個人の家の蛇口へと流れてくる過程の中に、どれだけ多くの人々の協力と支えがあるのかを忘れずに、蛇口をひねる度に感謝の気持ちを持ちながら、この大切な資源を使っていきたいと思います。

# 基幹水利施設ストックマネジメント事業 堀川地区の紹介

山武農業事務所

## 事業概要

堀川排水機場は千葉県大網白里市の九十九里浜に面する排水機場です。本機場は昭和59～61年に湛水防除事業堀川地区として施工された施設で、建設後30年あまりが過ぎ老朽化が著しく、排水機能の低下や維持管理に多大な労力と経費を費やしています。

そのため平成24～30年度にかけ基幹水利施設ストックマネジメント事業により老朽化した施設の補修や交換を行うことで、排水機能の回復、施設の長寿命化、維持補修費の低減を図り、農業経営の安定と地域住民の安全を維持するために実施しています。



## 事業内容

- 横軸斜流ポンプ …… φ1,200mm×3台(工場整備)
- 高圧・低圧電気盤 …………… 1式(交換)
- 水門の開閉器・操作盤 …………… 1式(交換)
- 建屋の補修 …………… 1式



▲堀川排水機場

## 整備状況

ポンプにおいては排水機能の回復を図るため、内部の主軸や羽根車等を工場に搬出し、そこで社内基準に基づき検査を実施、利用可能と判断された部品については研磨等により品質確保を行います。利用不可能と判断された部品については交換し、新旧部品により再度組み直し機場に据え付けます。

整備前

羽根車(緑青)



整備後

羽根車



整備前

ネジ山



整備後

ネジ山



電力供給に必要な電気設備は場内配線を引き直し、電気盤自体も交換しています。

本地区は海に面していることもあり金属製品の劣化が激しく、特に屋外に露出している吐出管はサビが目立ちますが、研磨を行い塗料を塗り重ねることによって金属の腐食を防止しています。機場内にあるポンプも同様に塗装しています。

整備前



▲吐出管



整備後



▲吐出管

整備前



▲ポンプ全景



整備後



▲ポンプ全景

## おわりに

堀川排水機場では、ポンプ3台の整備、電気盤等の交換が完了し、起動時のもたつきも解消され、運転時の音や振動が補修前と比べて小さくなるなど排水機能が改善されています。

事業実施にあたり排水機場であることから、通年排水機能を維持しなければならずポンプ1台毎の改修で長工期になり易いことや、新旧の部品を組合せによる品質管理の難しさが挙げられますが、ストックマネジメント事業により、新規製品と比較して低価格で機能回復が実現しました。

翌年度以降は水門など機場付帯施設や機場建屋の補修を行い、本事業は完了となります。

# かんがい排水事業両総茂原西部地区及び 地盤沈下対策事業南白亀地区の紹介

長生農業事務所

## 農業水利の概況

長生農業事務所は、茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町の7市町村を所管しています。

長生地域の東側は、九十九里平野南部の平坦な地形が広がっています。この地域は、天然ガスの自噴地帯のため地盤沈下が進み、河川堤防より低い農地が多く、排水に苦慮しています。このため、排水機場を数多く設置し、強制排水により湛水被害を防止しています。また、用水は、河川に頭首工を設けて取水するだけでは不足しているため、利根川より両総用水により導水しています。

一方西側では、丘陵地の間に谷津田が樹枝状に広がっています。ここでは、多くのため池、頭首工、ダムによって用水を確保しています。

近年では、管内全般にわたって水利施設の老朽化が進み、施設の補修や更新の要望が多くなっています。



▲山内ダム



▲天王免堰

## 農業生産の概況

九十九里平野では、水稻栽培が主として行われていますが、最近では露地野菜のタマネギ・ネギ、施設野菜のトマト・メロン・イチゴに力を入れています。また、谷津田では水稻のほかレンコンが特産品です。



▲水稻栽培



▲水耕トマト栽培

## 新規地区紹介

### 1 かんがい排水事業 両総茂原西部地区

利根川の水を長生地域に供給する両総用水のうち、茂原市西部の農地374haを受益とする西部幹線用水路を改修する事業です。

この用水路は、昭和18～40年度にかけて国営両総用水事業で建設されたもので、隧道とサイホンの用水路が老朽化したため、施設を管水路化し、水管理の合理化と維持管理の省力化を図るものです。



▲西部幹線用水路

#### 両総茂原西部地区 事業概要

- 受益面積 : 374ha(田374ha)
- 事業内容 : 用水路改修 L=3.9km  
(φ900mm～φ600mm)
- 事業費 : 927,720千円
- 事業期間 : 平成28～34年度

### 2 地盤沈下対策事業 南白亀地区

白子町南白亀地区が地盤沈下により排水機能が低下したため、排水機場を改修し排水機能を増強する事業です。

南白亀地区は、昭和38～43年度の県営ほ場整備事業で南白亀第一排水機場を造成しましたが、その後も地盤沈下が進み、昭和53年度からの鉱毒対策事業と、昭和61年度からの湛水防除事業により排水ポンプを増設してきました。しかし、さらに地盤が沈下し、湛水被害が発生する恐れがあるため、本事業により南白亀第一排水機場及び排水路800mを改修することになりました。



▲南白亀第一排水機場

#### 南白亀地区 事業概要

- 流域面積 : 629ha
- 受益面積 : 151ha(田134ha、他17ha)
- 事業内容 : ①排水機場改修 N=1箇所  
(ポンプφ1350mm・φ700mm)  
②排水路改修 L=800m
- 事業費 : 1,543,300千円
- 事業期間 : 平成28～34年度

# 夷隅農業事務所だより

夷隅農業事務所

当事務所は、勝浦市、いすみ市、大多喜町及び御宿町の2市2町を所管しており、総面積は406km<sup>2</sup>で東京都心から100km内外にあります。いささか交通の便が悪いのが難点です。

最寄りのJR大原駅からは約900mで比較的駅近に立地していますが、電車通勤の人はほとんどいません。最寄りインターは、圏央道の市原鶴舞インターで約28km離れており、管内の高速バスは勝浦、御宿、大多喜の発着はあるものの、いすみ市内の発着はありません。

立地は、お世辞にもいいとは言えませんが、事務所は土木、南部漁港と合同事務所となっていて庁舎管理は土木ですが、単独事務所とほとんど変わりありませんし、ウォシュレットも設置されていますので、居心地はいいと思います。

なお、企画振興課、改良普及課は大多喜町の合同庁舎にありますので多少不便な面もあり、企画振興課には農業土木職は在席していないものの、協力体制は整っていますので業務上の不便はありません。

本年度の県営事業は、6事業7地区640百万円を予定しており、地域整備課では課長ほか7名(副主幹3名、技師4名)が上半期の高執行率を目指して日夜勤しんでいます。

6事業7地区の内訳は、かんがい排水1、経営体育成基盤整備2、湛水防除1、中山間総合整備1、ため池等整備1、基幹ストマネ1となっており、本年度はかん排1、経営体1地区が事業完了予定です。

また、今まで県営事業で造成した3箇所のダム(荒木根、平沢、勝浦)があり、勝浦ダムについては本年度から基幹ストマネ事業を実施しています。

本年度は2地区完了予定ですが、今後はH30～32にかけて経営体育成基盤整備事業4地区を順次事業化する計画ですので、若い人たちはぜひ当事務所を勤務地に選んで、ほ場整備事業のスタートから業務に携わって経験を積んでいただきたいと思います。

次に管内4市町を紹介します。

## 勝浦市

勝浦は古くから漁業により栄え、カツオ・イセエビの水揚げ量は全国トップクラスで、天正年間より400年余の歴史を誇る朝市は、岐阜の高山、石川の輪島と並んで日本三大朝市と称され、現在は水曜日と元日を除く6時～11時に毎日開催されています。

2月下旬から3月上旬には、全国から寄せられた25,000体のひな人形が市内各所に飾られる「かつうらビッグひな祭り」が開催され、街全体がひな祭り一色となります。

自然環境に目を向けると、リアス式海岸の自然美あふれる景勝地・鵜原地先の一帯が勝浦海中公園に指定され、中央部に東洋一の規模を誇る海中展望台があり、水族館とは一味違う海洋生物や海底の様子が楽しめます。

最近では、昨年度開催された「第10回ご当地グルメでまちおこしの祭典!B-1グランプリin十和田」で、「熱血!勝浦タンタンメン船団」が《ゴールドグランプリ(1位)》に輝き、町おこしに大いに貢献したところです。

## いすみ市

いすみ市は平成17年12月5日に旧夷隅町、旧大原町、旧岬町の3町が合併して誕生した温暖な気候と肥沃な耕地に恵まれ四季折々の農作物が豊かに実る「田園都市」です。

大原はだか祭といすみ鉄道が有名ないすみ市ですが、文化財についても、国の重要文化財4件、県指定20件を含むいすみ市の指定文化財は計225件(2008年3月末現在)とその内容、件数において県内屈指を誇ります。なかでも、行元寺、飯縄寺は平安時代に天台宗の基礎を築いた高僧、慈覚大師によって創建されたと伝えられる由緒ある古刹で、「波の伊八」こと武志伊八郎信由の彫刻をはじめ多くの文化財を所蔵しており、一見の価値ありです。

また、魚介類の水揚げの種類が豊富な大原漁港では、毎週日曜日8時～12時に朝市が開催され、購入した海産物や干物がその場で食べられるバーベキューが大好評です。



夷隅農業事務所管内図



▲養老溪谷紅葉



おたっせー



▲粟又の滝



▶ビッグひな祭り



カッピー

勝浦朝市▶



▲ラクダ像



エビアミーゴ



いすみん



▲行元寺



▲大原漁港朝市



▲月の砂漠記念館

大多喜町

大多喜町は房総の小江戸とも言われ、江戸時代から変わらぬ建物が点在し、今も城下町の面影を残しています。

大多喜町のシンボルである大多喜城は、残念ながら明治4年7月に廃藩置県とともに廃城となり、城内の建造物はすべて破却されてしまいましたが、現在では本丸跡に城郭様式で建設した博物館となっています。「房総の城と城下町」をテーマに刀や鎧、衣装等を展示しています。

大多喜水道水路は、大多喜町の飲料水が悪いため小高半左衛門が明治2年に作った水道で、現在の水道ができるまで約80年間利用された総延長3.96kmの千葉県最古の水道です。遺構は千葉県立総南博物館の登り口の駐車場付近で見られます。

養老溪谷は、大多喜町粟又から市原市朝生原までの養老川沿いの溪谷です。上流には、100mにわたって滑り台のようなゆるやかな岩肌を流れ落ちる粟又の滝から岩ツツジで有名な小沢又の水月寺下流まで1.7kmの遊歩道が整備され、下流には、1.2kmの自然遊歩道があり、途中には中瀬キャンプ場、弘文洞跡があります。

おみやげには街中の専門店で売っている最高級の十万石最中がお勧めです。

御宿町

御宿町は、年間を通して温暖な気候で、海岸には約2kmに渡る真っ白な砂浜が広がり、毎年多くの海水浴客が訪れる房総を代表する海岸があり、童謡「月の沙漠」発祥の地として知られています。

童謡「月の沙漠」は御宿海岸が舞台となっていて、作者の加藤まさをは、大正中期より昭和前期にかけて一世を風靡したみずみずしい抒情画を多数発表し、一時代を築くとともに、大正12年に「月の沙漠」を発表しました。「月の砂漠記念館」では、加藤まさをはの作品や資料、御宿ゆかりの文人や画家の作品が紹介されています。

9月から10月にかけては、おんじゅく伊勢えび祭が開催され、お買い得な伊勢えびセットの販売や選りすぐりの元気な伊勢えびの直売を行い、会場内で炭火焼にして食べることもできます。また、協賛店ではオリジナルの伊勢えび料理が味わえます。

# 風ニモ魚ケズ

～連合会職員を紹介～

水土里ネット千葉 編集担当

いつもお世話になっている皆さまへ  
人と人が手を取って網の目(=ネット)を未来  
今回は技術部です。

- ① 主な担当業務 ② 出身地 ③ 血液型
- ④ 趣味・マイブーム・挑戦したいことなど



## 技術部の業務紹介

技術部は、農業農村事業の計画、設計、積算、施工監理を行う部署です。具体的には、土地改良施設維持管理適正化事業・地域農業水利ストックマネジメント事業等の積算、施工監理。事業の整備計画・採択に向けた調査設計。災害復旧事業の査定立合、実施設計、施工監理。地すべり対策事業の積算。

支援業務として、水利権許可申請書類の作成・積算システム・多面的機能支払交付金における活動組織への事務支援等を行っています。

### 参与 佐藤 賢治

- ① 技術部・管理指導部が行う業務の指導・助言と土地改良事業に関する法律相談
- ② 岩手県奥州市 ③ O型
- ④ 趣味：ウォーキング  
挑戦：写経と筆字による美文字への挑戦

### 部長 牧野 廣行

- ① 技術部を統括し本会員の行うNN事業の技術的な指導と援助を行っています。 ② 茂原市 ③ AB型
- ④ 趣味：スポーツをすること。特に卓球が好きです。  
マイブーム：孫と遊ぶこと。  
挑戦したいこと：10kg程度の減量。

## 事業計画課の紹介

農業農村整備事業申請の為に調査、計画、設計等を行っています。近年では、土地改良施設更新に係わる、地域農業水利施設ストックマネジメント事業、農業基盤整備促進事業や農業集落排水事業における施設更新に係る機能強化事業等の業務量が増え、土地改良施設等の老朽化等の問題が業務内容から顕著に見受けられます。事業計画課においては、様々な土地改良事業に対応すべく、日々技術力向上に努めていきます。



上段左から宮田、常見、戸田、馬場  
下段左から田中、小鍛冶、篠原

### 課長 篠原 裕次

- ① 事業計画課の業務調整と二級建築士事務所関係
- ② 福島県いわき市 ③ A型
- ④ 山岳活動や御神域に籠もり・山駆け・禊・鎮魂などの修行を通じ、未だに解らない自然の摂理を感得したい。

### 係長 田中 勇次

- ① 適正化・基盤促進
- ② 君津市 ③ A型
- ④ 趣味は、野球ほか玉(ボール)遊び、野球観戦(高校、プロ野球)。巨人ファン歴42年の野球おやじでございます。

### 主幹 小鍛冶 亮吉

- ① ストマネ
- ② 柏市 ③ A型
- ④ 趣味は釣り、キノコ、山菜採りです。

### 主幹 馬場 光一

- ① 集排
- ② 埼玉県 ③ A型
- ④ 唄って踊れる中高年を目指します!

### 副主査 戸田 由美

- ① 事務支援(多面) ② 千葉市 ③ B型
- ④ 車でサクッと行ける温泉巡りが趣味の代表で、中でもリピート率第1位の草津温泉がマイブームになっています。健脚なうちに、いつかは富士登山にチャレンジしてみたいなあ…と思っています。

### 技師 常見 侑希

- ① 積算(多面(長寿命化)) ② 大網白里市 ③ A型
- ④ 一ヶ月ほど前から、晴れの日には外に出て30分ほどジョギングをしたり、散歩したりするようになりました。少しずつですが、飽きずに続けていけたらと思っています。

### 臨時職員 宮田 純子

- ① 課全体の補佐
- ② 茨城県 ③ O型
- ④ 音楽鑑賞

へつなげていきますように願いを込めて、先号から水土里ネット千葉の職員を紹介させていただいております。

### 環境整備課の紹介

農業農村整備事業における工事の発注者支援として、発注用設計書の作成及び工事の施工監理等を当課主体で行っています。

また、土地改良施設維持管理適正化事業の新規採択に向けた積算書等作成による支援を行っています。

そのほか、災害復旧における査定設計書等作成による支援を行っています。



上段左から渡邊、村田、加藤、田井、八幡、  
下段左から糸日谷、林、高石、鈴木、木内、岡寄

#### 課長 岡寄 一雄

- ① 環境整備課の業務調整
- ② 匝瑳市
- ③ A型
- ④ 趣味は仕事・仕事・仕事ということはなく、読書です。トリウム原子炉の書籍は興味深くまた、考えさせられました。

#### 係長 木内 茂樹

- ① 適正化
- ② 香取市
- ③ O型
- ④ そろそろ千葉名産落花生作りを体得したいと思います。

#### 主幹 村田 佳彦(安房)

- ① 地すべり
- ② 館山市
- ③ B型
- ④ 読書(週刊誌から推理小説)

#### 主幹 高石 昌浩

- ① 適正化・協議会関係※1
- ② 市原市五井
- ③ O型
- ④ 応援しているサッカーチームが1部に昇格しそうにありませんが、不出来な子ほど可愛いので、懲りずに応援し続けます。

※1…千葉県農村地域再生エネルギー推進協議会、千葉県農業集落排水協議会

#### 主幹 林 誠嗣

- ① 基盤促進・適正化
- ② 生まれも育ちも香取市です。
- ③ B型です。
- ④ 無趣味で困ってますが、常日頃気にかけているのは神社・仏閣が目に入ると頭を下げる事です。直接参詣・参拝に行けなくても、感謝感謝の色即是空 空即是空であります。

#### 主査 糸日谷 隆

- ① 適正化・基盤促進
- ② 山武市
- ③ A型
- ④ 趣味は、ラグビー。いま一番したいことは、とにかくあばれたい。

#### 主査 田井 亮行

- ① 適正化・地すべり・集排
- ② 木更津市
- ③ O型
- ④ 趣味：旅行  
挑戦したいこと：折角やせたのに、少しずつ元に戻りつつあるため、あと5kgのダイエット!

#### 技師 鈴木 俊

- ① 適正化
- ② 東金市
- ③ A型
- ④ 趣味：今はないので模索中です。  
マイブーム：自動車購入の検討  
挑戦したいこと：資格の取得(可能なら給与に関するもの)

#### 特別嘱託 加藤 哲也

- ① 製図作業全般
- ② 千葉市
- ③ A型
- ④ 趣味ドライブ…が、車が故障中。新しいクルマが欲しい(切実)ただいまダイエット中。目標二桁kg痩せ。

#### 非常勤嘱託 八幡 陽雄

- ① 電気設備の施工管理及び施設の管理指導
- ② 北海道三笠市
- ③ A型
- ④ 趣味は囲碁。  
バイオマスを活用した有機肥料を使い、環境に優しい野菜作りに挑戦しています。

#### 臨時職員 渡邊 佳子

- ① 課全体の補佐
- ② 東京都
- ③ A型
- ④ 大人の塗り絵  
ネコとの戯れ

皆さまに必要といただける存在であるよう職員一同頑張って参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

技術部：043-241-9987 FAX:043-248-2521

事業計画課：043-241-2794 環境整備課：043-241-9982

テーマ  
誰もが  
住んでみたい  
美しい農村環境

# 美しい 第23回 写真コンテスト 作品募集中!

## 美しい農村環境

あなたが見つけた美しい農村や農村環境、農村におけるさまざまな活動を写真におさめてみませんか。

応募締切  
平成29年  
6月10日

第22回千葉県土連会長賞



第22回ちば水土里支援パートナー賞



第22回千葉県多面的機能推進協議会賞



第22回千葉県農村振興技術連盟賞



第22回千葉県知事賞

### 各賞

- 千葉県知事賞 ..... 1点(賞状・副賞)
- 千葉県土連会長賞 ..... 1点(賞状・副賞)
- 特別賞 3点(賞状・副賞) ■金賞 1点(賞状・副賞)
- 銀賞 2点(賞状・副賞) ■銅賞 3点(賞状・副賞)
- 佳作 数点(賞状・副賞) ■参加賞 入選者以外の方に粗品進呈

### 応募要領

- 応募資格 千葉県在住または在勤の方
  - 応募規定 千葉県内で撮影したもの
  - 応募作品について
    - ・カラープリントの単写真に限ります。・応募は未発表のもので1人3作品までとします。
    - ・写真サイズは四切り(ワイド可)・A4とします。
    - ・合成写真や過度の画像補正を行った実像に反する写真は応募できません。
    - ・人物が被写体の場合は、応募者の責任により肖像権に触れないようにして下さい。
    - ・応募の際は応募票に記入し、応募作品の裏に貼り付けて下さい。(応募票はコピーでも可)
  - 入賞作品について
    - ・入賞作品は1人1点までとします。(佳作はこれに限りません)
    - ・応募作品の著作権は撮影者に帰属します。
    - ・入選作品は、主催者が開催する展示会のほか、広報のためにポスター・チラシ・ホームページなどで使用することがあります。
    - ・入選作品以外の応募作品も、上記展示会において展示することがあります。
    - ・入選作品は原版を後日提出してもらいます。(デジタルカメラの場合はオリジナルデータをCD-R等にコピーしたもの)
- 注意事項
- ・応募作品は原則として返却いたしません。返却を希望する場合は、送料相当分の切手と返信用の封筒を同封して下さい。(同封がないときには着払いで返却します。)
  - ・複数の作品を応募する際には、それぞれの作品に汚れや傷が付かないように十分注意して封筒等に入れ、送付して下さい。
  - ・応募作品の取扱いには十分注意いたしますが、汚れ、破損等、万一の事故に対する責任は負いかねますので、ご了承下さい。
  - ・応募票に記入していただいた情報は、個人情報保護方針に基づき適正に取り扱いたします。

### 応募締切

平成29年6月10日(当日消印有効)  
 [応募先] 〒261-0002 千葉市美浜区新港249-5  
 水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)  
 管理指導部 TEL 043-241-1728(直通)

水土里ネットちば 312号 (平成28年11月発行)



### 発行

水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)  
 〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地5  
 TEL.043-241-1711(代)/FAX.043-248-2563(代)

### 印刷

株式会社ニッセイアド  
 〒264-0026 千葉市若葉区西都賀4-18-3  
 TEL.043-206-7752/FAX.043-206-7753